

# 三重河川の紹介

# 三重河川の紹介



## 三重河川における法定計画の策定状況

- 櫛田川水系

平成15年10月 2日河川整備基本方針策定

平成17年 8月 3日河川整備計画（大臣管理区間）策定

- 雲出川水系

平成18年 9月 1日河川整備基本方針策定

- 宮川水系

平成19年11月22日河川整備基本方針策定

- 鈴鹿川水系

河川整備基本方針は、現在、策定に向けて審議中



# 鈴鹿川水系

## 流域及び氾濫域の諸元

流域面積(集水面積)	: 323km <sup>2</sup>
幹川流路延長	: 38.0km
流域内人口	: 約11万人
主な市町村	: 四日市市、鈴鹿市、 亀山市
想定氾濫区域面積	: 約69km <sup>2</sup>
想定氾濫区域内人口	: 約8万人
想定氾濫区域内資産額	: 約1.3兆円

## 工事実施基本計画

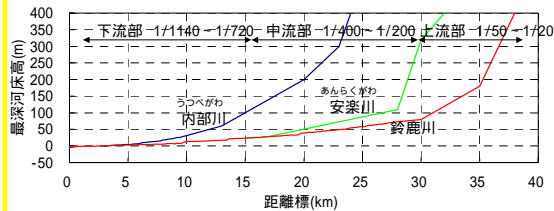
対象降雨量	: 289mm / 6h (1/150)
基本高水のピーク流量	: 3,900m <sup>3</sup> /s (高岡)
計画高水流量	: 3,900m <sup>3</sup> /s (高岡)

## 地形・河川特性及び降水量

中流部から下流部にかけて、北側は鈴鹿山麓から連なる扇状地が波状に広がり、南側は河口まで沖積平野が形成

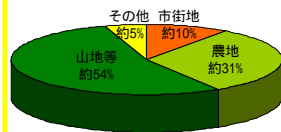
砂河川で伏流化しやすいことから瀬切れが常襲化

年間降水量は1,800～2,200mm程度



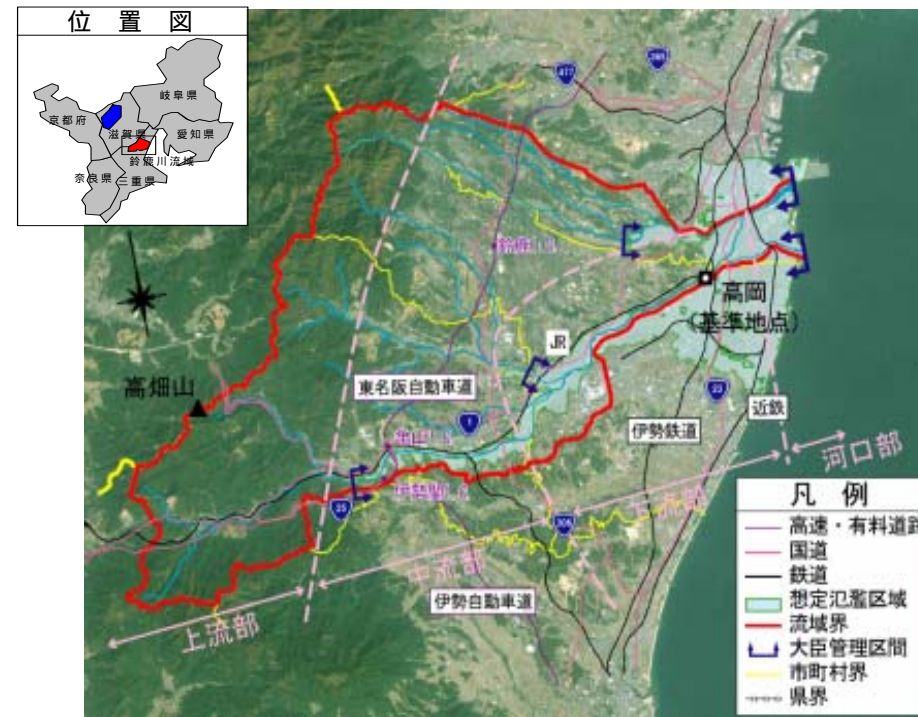
## 土地利用状況

流域の54%が山地等人口・資産は下流部に集中し、河口部には日本屈指の石油化学コンビナート地帯が広がる  
中流部の鈴鹿市、亀山市にも工業団地や液晶関連企業が集積



河口部の四日市市には日本屈指の石油化学コンビナート地帯が広がり、ひとたび氾濫すると甚大な被害発生

全川にわたって流下能力不足のため、河道掘削や樹木伐開、頭首工等の改築が必要  
H19.4の震度5強の地震により堤防にクラック等が発生したこと、「東南海・南海地震防災対策推進地域」に指定されていることから、今後は堤防の耐震対策を推進することが急務



## 主な洪水被害

S34.9の伊勢湾台風では、高潮被害により死者・行方不明者115名となる甚大な被害が発生

観測史上最大流量(高岡地点)を記録したS49.7洪水では、鈴鹿川の流下能力不足及び支川の破堤により浸水面積7,551haにのぼる甚大な被害が発生

洪水発生年	高岡地点		被害状況			
	流域平均 日雨量(mm)	流量(m <sup>3</sup> /s)	死者行方 不明者(人)	全壊・半壊・ 流出(戸)	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)
S54.9	225	950	115	1,250	15,128	3,119
S49.7	343	3,200	2	7	1,147	3,737
H7.5	241	2,000	0	0	2	18



S34.9伊勢湾台風での浸水状況(四日市市楠町)



S49.7洪水の浸水状況(鈴鹿市庄野町)

## 治水対策



鈴鹿川左岸19.2kmに発生したクラック

流下能力不足を解消するため、築堤や引堤、河道掘削等を実施

H19.4.15に発生した震度5強の地震により、堤防にクラックが10箇所約500m発生したため、復旧工事を実施

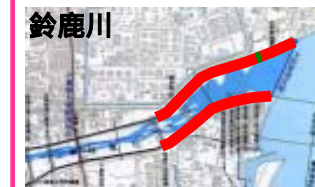
流域は「東南海・南海地震防災対策推進地域」にも指定されていることから、今後も大規模地震に備えた堤防の耐震対策が急務

S34.9の伊勢湾台風を受けて概成した高潮堤防は老朽化が著しいことから改築が必要



高潮堤防の空洞化により約20cm変位し、崩壊の危険性

完成区間: ■  
改築区間: ■



鈴鹿川



派川

## 河川環境

流域の大半を人工林が占める中、上流部ではブナ等の自然植生が残る

支川安楽川に生息しているネコギギ(国指定の特別天然記念物)は個体数が減少

中流部から下流部では頭首工により魚類の遡上範囲が分断されているため、魚道の新設・改築が必要



上流部のブナ林



鈴鹿川第一頭首工に設置された魚道

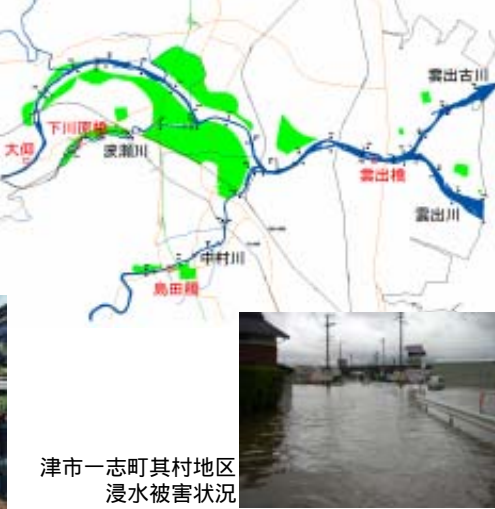
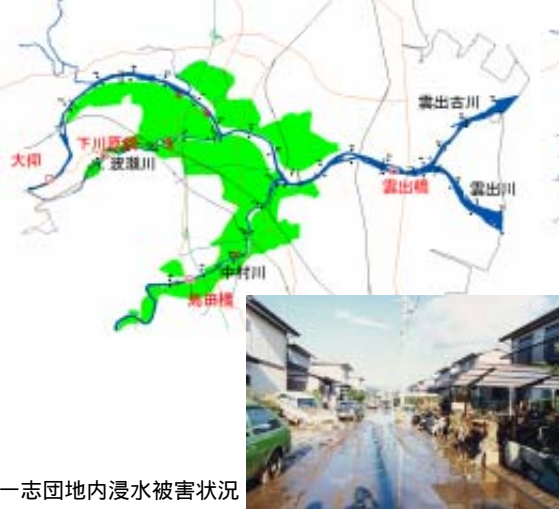


# 雲出川水系

中流から下流域の地形は後背湿地であり洪水に見舞われやすい地形

昭和57年8月洪水(台風10号)浸水実績図

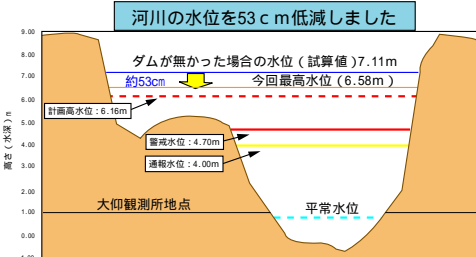
平成16年9月洪水(台風21号)浸水実績図



洪水名	流域平均日雨量 (雲出橋上流域)	最高水位(大仰) (HWL6.16m)	浸水被害戸数	浸水被害面積
昭和57年8月	361mm	6.68m	1,426戸	976.9ha
平成16年9月	238mm	6.57m	120戸	786ha

堤防整備状況	完成	暫定	未整備
平成16年度末	28.0km (57.7%)	14.2km (29.3%)	6.3km (13.0%)

昭和47年に竣工した君ヶ野ダム  
着実にその治水効果を発揮している



平成16年9月洪水(台風21号)に対する洪水調節効果

- 【君ヶ野ダムの目的】
- 洪水調節
  - 農業用水補給
  - 上水道用水補給
  - 工業用水補給

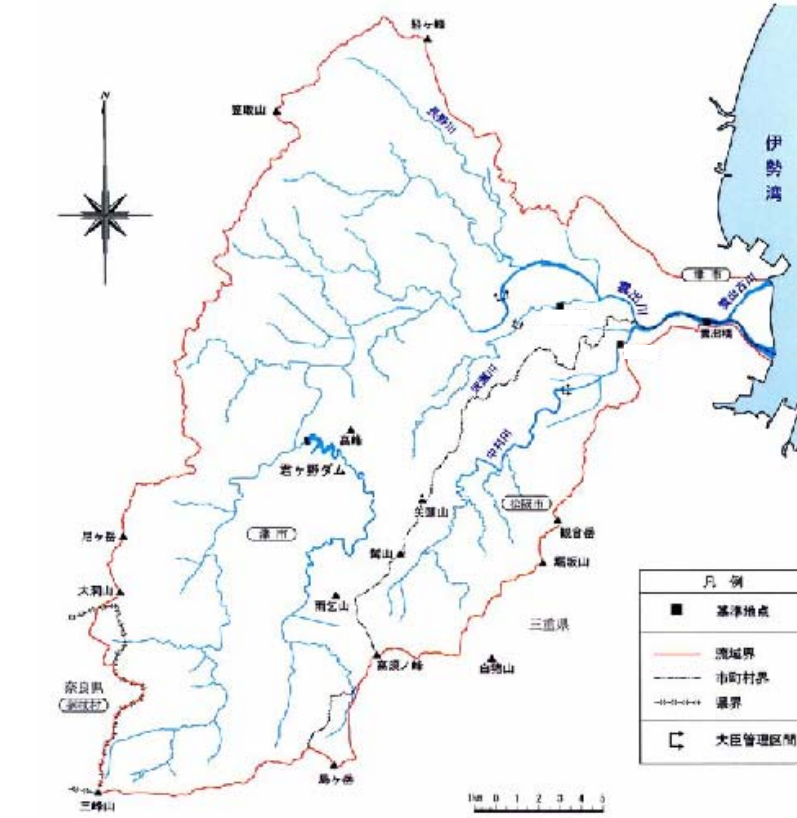
古くから洪水の危険から生命、財産を守るため霞堤がつくられ現在も残っている。



- 沿川では、古くから開田が行われてきた。
- 現在もなお残されている開口部は、主に水田や畑に利用され、出水時にはしばしば浸水。
- 既定計画では、小戸木、牧地区については遊水地としている。

対象降雨量: 358mm/日(計画規模1/100) (雲出橋上流)  
基本高水のピーク流量: 8,000m<sup>3</sup>/s(雲出橋地点)  
計画高水流量: 6,100m<sup>3</sup>/s(雲出橋地点)

- 【流域の諸元】
- 流域面積: 550km<sup>2</sup>
  - 幹川流路延長: 55km
  - 流域内人口: 約9万人
  - 主な市町村: 三重県津市, 松阪市
  - 想定氾濫区域面積: 59km<sup>2</sup>
  - 想定氾濫区域内人口: 約4.1万人
  - 想定氾濫区域内資産額: 約6千6百億円



雲出川流域位置図



一志米は、三重県ブランドとして確立



上流域の美杉では、スギを中心とした林業が盛ん

河口部の干潟は動植物にとって貴重な生息場



河口部干潟は、日本の重要湿地500(環境省)に選定

地域の憩いの場として河川空間を有効に活用



中村川桜づつみ公園



雲出川緑地



# 櫛田川水系

## 流域及び氾濫域の緒元

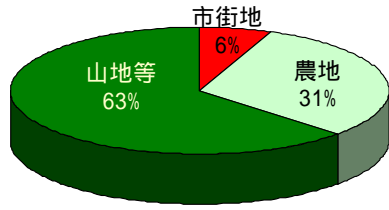
流域面積 : 436km<sup>2</sup>  
 幹川流路延長 : 87km  
 沿川市町村人口 : 約17万人  
 主な市町村 : 松阪市、多気町  
 想定氾濫区域面積 : 99km<sup>2</sup>  
 想定氾濫区域内人口 : 約7万人  
 想定氾濫区域内資産 : 約1.0兆円

## 河川整備基本方針

基本高水のピーク流量 : 4,800m<sup>3</sup>/s (両郡橋)  
 計画高水流量 : 4,300m<sup>3</sup>/s (両郡橋)

## 土地利用状況

流域の約63%が山地



室生赤目青山国定公園



	鳥獣保護区
	休養地
	遊歩禁止区域

蓮ダム

宮の谷高滝

# 袷川

伊勢神宮とゆかりの歴史をしのばせる袷川

- ・袷川はその河畔沿いに、ケヤキ等の河畔林が繁茂し、タナゴ類が生息する自然豊かな小河川
- ・袷川の名は齋王が都から齋宮へ入るときに、この川が袷ぎに用いられたことに由来



齋王まつり

櫛田川からの洪水分派計画を見直し、袷川の良好な河川環境を保全



袷川の河畔林

## 河川環境

香肌峡に代表される豊かな自然環境

- ・上流部には、ブナの原生林が残りオオダイガハラサンショウウオ(三重県指定天然記念物)が生息
- ・中流部は岩盤の露出とともに、連続する瀬・淵にはアユ、ネコギギ(国指定天然記念物)が生息
- ・香肌峡の名が示すように、田川沿川には、アユ、お茶、椎茸といった香り高い産物が多い
- ・河口付近の干潟には、ハマボウなどの海浜性植物や、ゴカイなどの汽水性底生動物が生息



宮の谷高滝



ネコギギ【提供：清水義孝氏】



河口部干潟

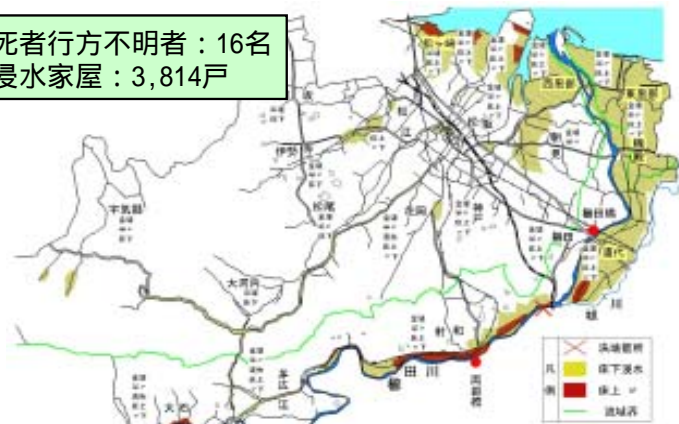


河口部ハマボウ群落

## 主な洪水被害

伊勢湾台風(昭和34年9月)により甚大な被害が発生

死者行方不明者: 16名  
 浸水家屋: 3,814戸



伊勢湾台風浸水区域図【出典：松阪市史】

## 治水対策

伊勢湾台風を契機に直轄事業に着手  
 下流部の水位低下対策が急務

昭和44年 櫛田川頭首工の可動堰化



櫛田可動堰

平成3年 蓮ダム完成



洪水調節中の蓮ダム(H9.7)



太平橋による流下阻害

平成6年9月洪水において、下流部で計画高水位を超過漏水の発生等により危険な状態



# 宮川水系河川整備基本方針(案)の概要

## 流域及び河川の概要

いすず せた

- 宮川、五十鈴川、勢田川が合流している下流部の低平地域には、年間600万人が訪れる伊勢神宮を抱える伊勢市等の中心市街地が広がり、氾濫すると被害は甚大
- 日本有数の多雨地帯である大台ヶ原を源流にもち、平均年間降水量は3,400mm超
- 宮川は、平成3、12、14～16、18年に「清流日本一」となる良好な水質を保持

### 流域及び氾濫域の諸元

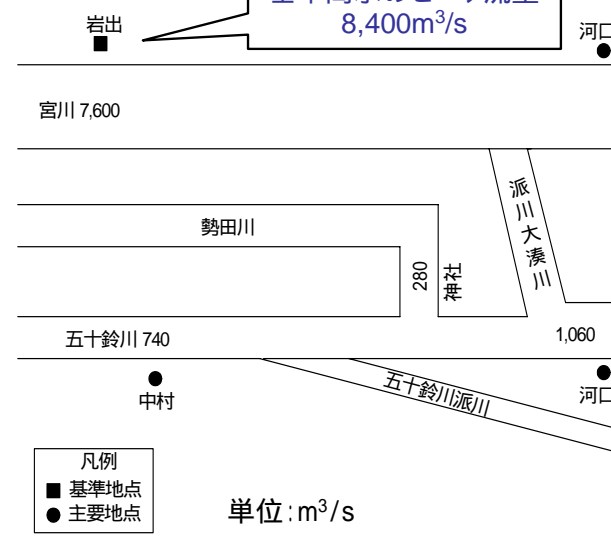
流域面積(集水面積) : 920km<sup>2</sup>  
 幹川流路延長 : 91km  
 想定氾濫区域内人口 : 約12万人



## 災害の発生の防止又は軽減

- 工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、既往洪水による検討、時間雨量による検討等を総合的に検討し、河川整備基本方針においても既定計画と同様に基本高水のピーク流量を基準地点岩出で8,400m<sup>3</sup>/sと設定

### 流量配分図



- 基本高水流量と計画高水流量の差分については、既設洪水調節施設により対応
- 堤防の新築、拡築、河道掘削及び樹木伐開により流下能力を確保
- S34.9伊勢湾台風を受けて整備された高潮堤防が老朽化しているため、改築を実施
- 流下能力が不足する勢田川では、河道掘削等を実施



## 河川環境の整備と保全

- 上流部では、国指定の天然記念物であるニホンカモシカやネコギギ等が生息しており、現状の良好な河川環境を保全
- 下流部では、連続した瀬や淵にはアユの産卵床が形成され、ワンドにはタナゴ類が生息していることから、河道掘削にあたっては水際の河川環境に影響の少ない範囲で掘削し、掘削法面も緩勾配化



ネコギギ



アユ産卵床

## 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量の確保に努める
- 岩出地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、4月～5月及び9月16日～12月は概ね6m<sup>3</sup>/s、それ以外の時期は概ね4m<sup>3</sup>/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利使用、河川環境の保全等に資するものとする